

詳細発明届出書

提出日

発明者氏名

印

私 / 私達は、下記発明について、日本及び外国において特許を受ける権利を、
株式会社に譲渡します。

1．発明の名称

かな漢字変換方法

2．発明の分野

かな漢字変換

3．発明の効果

その発明が、どのような効果を持つのかを書いて下さい。従来の技術と比べての効果を書いて下さい。

ユーザの使用状況に応じた順で漢字候補を表示でき、効率のよい変換を実現できる。

4．効果をもたらした工夫

上記の効果を得るために採用した工夫を書いて下さい。

漢字ごとに使用回数を記録しておき、使用回数の順に漢字候補を表示するようにした。

5．従来の手法

類似する従来の手法を説明して下さい。

今までのシステムは、漢字候補の表示順序が固定的であった。このため、そのユーザがよく使う漢字であっても、後ろの方の候補として表示されることがあった。

6 . 発明の実施形態

図面を添付して、発明を説明してください。図面としては、システムの全体図、処理を示すフローチャート、処理画面、やりとりされるデータ・記録されるデータの例を示して下さい。

(1)ハードウェア構成

ハードウェアは、図3に示すとおり一般的なパーソナルコンピュータである。ハードディスク6に、かな漢字変換のためのプログラムとその辞書がインストールされる。

(2)辞書の構造

図4にかな漢字変換プログラムのフローチャートを示す。図5に、辞書ファイルの構成を示す。5の辞書ファイルには、漢字とともに、その使用回数（使用頻度）が記録される。たとえば、消化は21回使用され、唱歌は5回使用され、商家は12回使用されたことが記録されている。また、辞書ファイルには、インデックス部が設けられていて、使用頻度の多い順に漢字のアドレスを記録している。

(3)変換処理

キーボード10から、“しょうか”を入力する（ステップS1）。これに応じて、図7に示すように、ディスプレイ4に“しょうか”が表示される。

次に、キーボード10の変換キーを押すと（ステップS2）、 $i = 1$ として、まず、インデックス部1番目のアドレスad1の漢字を表示する（ステップS3、S4、S5、S6）。インデックス部は、使用頻度の高い順に漢字のアドレスを記録しているので、最も使用頻度の高い漢字である“消化”が表示される。

さらに、変換キーを押すと、 $i = 2$ となり（ステップS4）、インデックス部の2番目にアドレスが記録された漢字“商家”が表示される。このような操作を繰り返すと、図8に示すように、変換キーを押すごとに、“消化”“商家”“唱歌”“小過”“昇華”の順に漢字が表示される。

”昇華”が表示されているときに、キーボード10の確定キーを押すと（ステップS7）、この漢字”昇華”が文書ファイルなどに出力される（ステップS8）。さらに、確定された漢字”昇華”の使用頻度が、図6に示すように+1される（ステップS9）。次に、更新された使用頻度にしたがって、図6のようにインデックス部の並び替えを行う（ステップS10）。

このようにして、使用頻度の順次漢字の候補が表示され、よく使用されるものほど、変換キーを押す回数が少なくてすむようにできる。

7. その他の実施形態

変形例を示して下さい。

なお、図9に示すように、複数の漢字を一度に、使用頻度順に並べて表示するようにしてもよい。

上記では、インデックスを用いて使用頻度順に表示するようにしているが、インデックスを用いず、辞書中の漢字を使用頻度順に並べ替えておくようにしてもよい。

以上

図 1 (従来)

画 面

消化

辞書

しょうか

消化

唱歌

商家

小過

昇華

⋮

図 2 (従来)

画 面

昇華

図 3 ハードウェア構成

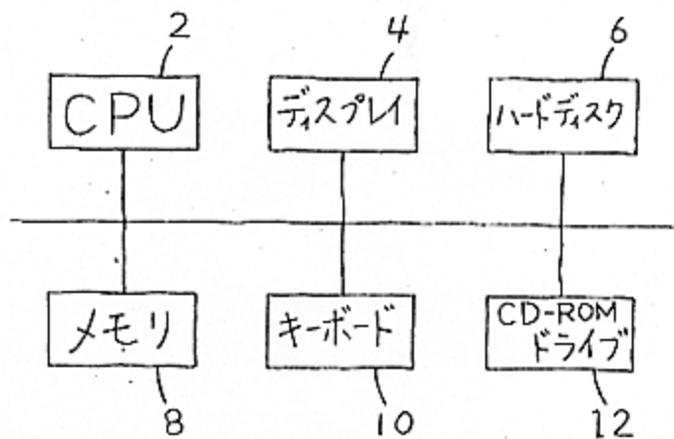


図4 フローチャート

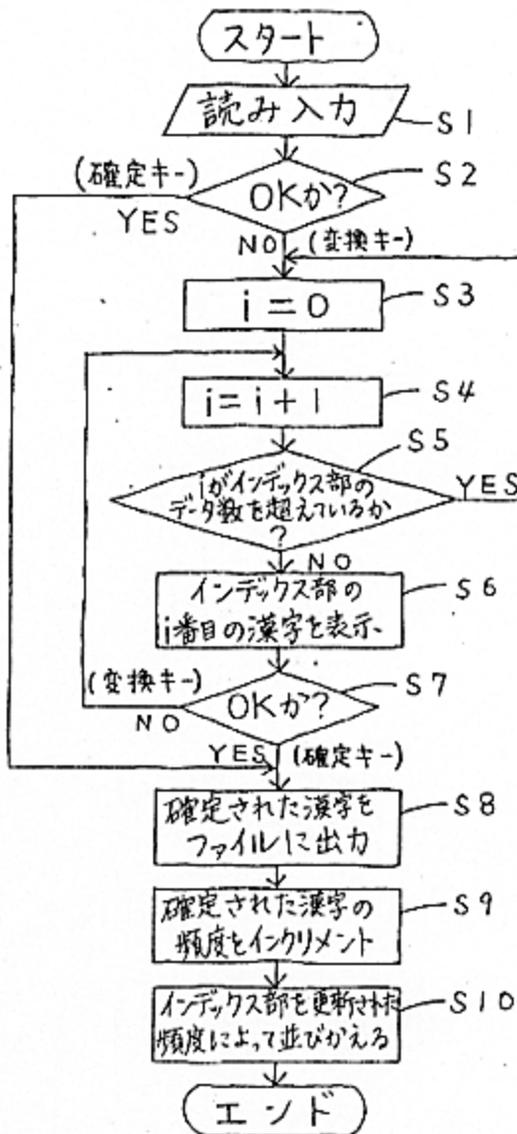


図5 辞書ファイル

インデクス部		しょうか	
ad1	ad1	消化	21
ad3	ad2	唱歌	5
ad2	ad3	商家	12
ad4	ad4	小過	0
ad5	ad5	昇華	0
⋮		⋮	⋮

図6 更新された辞書ファイル

インデクス部		しょうか	
ad1	ad1	消化	21
ad3	ad2	唱歌	5
ad2	ad3	商家	12
ad5	ad4	小過	0
ad4	ad5	昇華	1
⋮		⋮	⋮

㊦ 7

しょうか

㊦ 8

消化



商家



唱歌



小過



昇華

㊦ 9

消	化
商	家
唱	歌
小	過
昇	華